

平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」選定取組の概要及び選定理由

申請担当大学 (連携大学)	群馬大学 (信州大学、獨協医科大学、日本大学、埼玉医科大学)
取組名	関東・信州広域循環型専門医養成プログラム -専門医育成と医師不足解消を目指して-
事業責任者	石川 治 (病院長)
(取組の概要)	
<p>本事業は、群馬大学、信州大学、獨協医科大学、日本大学、埼玉医科大学と大学病院の関連施設が連携し、専門医育成と医師不足解消を目指す循環型高度医療人養成プログラムである。関東・信州地域の大学病院とその関連施設がそれぞれの特色ある機能を活かしつつ、相互に機能を補完する環境の下で、指導医が高水準の医療を示し、リサーチマインドをもつ若手専門医師を育成する。すなわち、次世代の診療・教育・研究を担う医師を育成する循環型キャリアパスを確立する。地域関連病院に指導医を優先的に巡回させることにより若手医師の臨床能力を向上させ、若手医師も連携病院間を循環することにより様々な患者や疾患を経験する。最終的にはチーム医療を担うことができる専門医師を確保して地域医療の安定化を目指す。参加大学病院は地域診療施設の機能分担について医療関係団体及び都県と緊密な連携をとり、地域の医療体制を再構築し、維持する。</p>	
(選定理由)	
<p>医療人能力開発センター、各大学コーディネーターの設置や専門性の高い医師育成キャリアパスの構築は本プログラム及びテーマの趣旨に適合しており高く評価できる。</p> <p>プログラム形式の共通化や明示による透明性が担保されており、また長期の研修を要する分野では長期の設定があるなど、実現性の高いものとなっている。</p> <p>各大学に責任ある立場の人が設定され、群馬大学のセンターが機能するようになれば有効性が高まるものと思われる。</p> <p>共通の評価体制によるプログラム自体の相互評価がなされる工夫があり、取組の質の向上や改善に結びつけるシステムとなっている。</p> <p>一方で、大学中心の研修が目立つ点と、総合医の育成にあまり重点が置かれていない点に工夫が加われば、医師不足解消に繋がるのではないかと、また大学間、あるいはプログラム内容の補完・連携の具体的な取組があれば、実現性が向上するのではないかとと思われる。総合医の育成についても本プログラムでは実現可能性が低いように見受けられる。</p> <p>大学間で交流が行われ、調整すべきプログラムがあれば有効性も高まるだろう。</p> <p>評価体制については他大学からの評価の担保が無い点については改善の余地がある。</p>	